

投資に役立つ

経済ワード

Vol.8

長短金利

金利は満期日までの期間の長さによって、「短期金利」と「長期金利」に分けられます。

身近なものでいうと、普通預金は「短期金利」の影響を、1年以上の定期預金、固定金利の住宅ローンは「長期金利」の影響を受けます。



長短金利の主な決定要因

各国の中央銀行は、持続的な経済成長のために政策金利の変更などの金融政策を行ないます。例えば利上げが行なわれると、企業や個人は金利負担が増えるため、お金を借りにくくなり、過熱気味の景気を抑えられるという効果が期待されます。

ただし、利上げにより全ての金利が一律に上昇するわけではありません。満期までの期間が「短い」か「長い」かによって利上げによる影響度合が異なってきます。一般的に各国中央銀行が政策金利（短期金利）の変更を行なうと、その他の「短期金利」も影響を受けやすくなります。一方、「長期金利」は将来の短期金利、景気、物価など、市場参加者の予想による影響が大きくなるため、相対的には政策金利変更の影響を受け難くなっています。

■ 短期金利と長期金利の主な決定要因

短期金利 (期間が1年未満の金利)	長期金利 (期間が1年以上の金利)
<ul style="list-style-type: none"> ● 無担保コール翌日物金利 ● 日銀当座預金 ：政策金利残高適用金利 ● 普通預金の金利 など 	<ul style="list-style-type: none"> ● 10年国債利回り ● 定期預金の金利 (1年以上) ● 固定金利の住宅ローン など
<p>現在の状況がより影響</p> <p>金融政策</p> <p>市場の資金需要</p>	<p>将来の予想がより影響</p> <p>短期金利の予想</p> <p>景気、物価の予想</p>

上記は金利の決定要因の全てを説明するものではありません。

政策金利の変更と国債利回り

右のグラフの推移を見ると、同じ米国債券でも満期までの期間により、政策金利が変更された時の影響が異なります。期間の短い米国2年国債利回りの推移は、政策金利の動きと概ね一致していますが、期間の長い米国10年国債利回りの推移は、多少連動しているものの、必ずしも一致していないことが分かります。

2015年12月以降の利上げ局面では、市場参加者が「今後も利上げするだろう」と予想したため、長期金利である米国10年国債利回りは上昇傾向にありました。

■ 米国の政策金利の推移



政策金利：FF金利目標値上限、国債：ブルームバーグジェネリック
(出所) ブルームバーグのデータを基に野村アセットマネジメント作成

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。ご自身でご判断ください。